

令和5年度第1回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会 結果概要

◆日時 令和5年7月5日（水）19:00～20:35

◆会場 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 4階 大会議室

◆出席委員

寺 和奈委員、亀谷 崇委員、田尻 優子委員、筒井 琢磨委員、池山 敦委員、
田中 真理子委員、原 幸久委員、谷 朋恵委員、河井 英利委員、藤原 寛仁委員、
世古 晃文委員、高橋 勝利委員、富内 伊佐雄委員、堀田 稔朗委員、山本 久美委員

◆欠席委員

竹内 厚史委員、前田 敦子委員

◆出席職員

情報戦略局長、情報戦略局次長、企画調整課長、同課副参事、同課係長、同課主査、
職員課長、広報広聴課長、市民交流課副参事、健康課副参事、福祉総合支援センター参事兼センター
長、子育て応援課長、こども発達支援室長、商工労政課長、農林水産課長、観光誘客課長、観光振興
課長、都市整備部次長兼監理課長、交通政策課長、社会教育課長、教育研究所長

◆議事概要

※以下の要録は、事務局により要旨を編集したものです。微妙なニュアンス等が表現されておられませんので、ご了承ください。

1 正副会長の選任

会長は筒井 琢磨委員、副会長は寺 和奈委員を選任。

2 第2次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン変更案について

(1) 資料1に基づき、変更箇所の概略について説明

① 各年度の実績や実施スケジュール等の更新（各取組共通）

- ・「事業費」「実績額」「取組の実績」の数値等を更新した。
- ・実施スケジュールの進捗状況の報告
「A：達成の見込み」「B：未達成の見込みだが、一定の進捗あり」「C：未達成の見込み」
の3段階で示している。
- ・「現状と課題」や「今後の方向性」等の内容について、必要に応じて見直しを行った。

② 新規取組の追加なし

(2) 委員意見・質問

- ・過去のビジョン変更において、第1～4章の変更はあったか。
→過去に市町紹介ページの更新等行ったが、大きな方向性等の変更はなし。
- ・41ページの取組「県道伊勢南島線の建設促進」の事業費3千円の内容は。
→提案活動の実施等に伴う事務費。

- ・ P 3 2 の取組「イベントの誘致・開催」について、R 5 年度以降の予定は。
→陸上競技大会（U 1 6、U 1 8）の全国大会がR 6～8 年度に実施される予定。
- ・ 修正箇所について、何か大きな変更はあったのか。
→時点修正等のみで、大きな変更は行っていない。第 3 次ビジョン策定においては、適宜見直しを行っていきたい。
- ・ P 3 1 の取組「企業立地の推進」について、企業立地の状況は。
→R 4 年度は鳥羽市で 1 件企業立地があった。各市町において、設備投資に対する奨励金を交付している。圏域においては、新たに企業を誘致するための広大な土地が不足しているため、伊勢志摩からの流出を防止するための施策に主眼を置き、働く場の確保に努めている。
- ・ 全体の目標値設定の考え方は。
→個々の取組において、目標年次に向けて、着実に到達していきたい数値を目標値としている。
- ・ P 2 9 の取り組み「伊勢志摩総合地方卸売市場の経営基盤の確立」における成果指標の「繰越利益剰余金」は、どういった考えで設定したのか。
→施設の老朽化に伴う修繕等が必要なことから、H 2 8 年までに完済予定であった貸付金の償還期限を延長した経緯がある。延命のための修繕も見込んでおり、経営の安定化の目安として設定している。

3 第 3 次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの策定について

(1) 資料 2に基づき、変更箇所の概略について説明

(2) 委員意見・質問

なし

4 圏域の現状と課題（懇談）

- ・ 2 次救急医療について、日赤は規模が大きいため、伊勢病院と受け入れに差があるのは当然であると感じる。
- ・ 1 0 年前と比較すると、人手不足・高齢化の影響なのか、夜間にタクシーが拾えない。
- ・ コロナ禍を経て、福祉サービス事業においても非常時への対応力の強化が求められている。自然災害発生時もサービスを継続して提供することが必要であり、現在BCPの策定を進めている。
- ・ 大学においては、H 2 6 年度から、教育プログラム「伊勢志摩定住自立圏共生学」により人材育成に取り組んでいる。R 5 年度に教育プログラムの見直しを行ったところで、ゼミ形式でも「伊勢志摩定住自立圏共生学」を学ぶことが出来るなど、「伊勢志摩」という教科書を活かした教育を実施。少子高齢化において、学生の確保が課題となっている。地域人材の育成に向けて方向性が見えてきたところであり、さらに教育内容を深めていきたいと考えている。
- ・ コロナ禍においては廃業が多く見られた。また、事業継承ができないという話を聞く。一方で、伊勢に魅力を感じ、移住し開業する人もいるため、住みやすさなどの魅力をもっと発信できればと感じる。慢性的に人手不足であり、若い世代の働き手がいらない。採用の募集をかけると、高齢者の応募も多くあるが、交通手段が確保できず働けない方もおり、課題であると感じている。

- ・三重県経済の動向について、個人消費は、物価高の影響はあるものの、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、社会経済活動が正常化に向かっていることから、持ち直しの動きが見られる。また、生産については、部材の供給制約や原材料の高騰等の課題もあるが、ゆるやかに持ち直す見込みである。
- ・賃金については、三重県内の事業所を対象とした調査では、令和5年度中に賃上げを考えている企業が62.4%となっており、回答企業の9割、前年度52.8%と比べて1割増である。特に非製造業において、人手不足から賃上げを検討している事業所もあるようである。
- ・観光については、令和4年の三重県の観光レクリエーション入込客数は3,266万人であり、コロナ禍前の令和元年比では24.1%減であるが前年比は21.8%増となっている。伊勢志摩においては、新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、インバウンドが徐々に回復してきている。観光庁のインバウンド観光地づくりのモデル地域にも選定された。今後、インバウンドの本格的な復活が地域の活性化につながればと考えている。
- ・定住人口1人に対して交流人口として8人のインバウンドの消費が必要というデータがある。この地域に来てもらい、このエリアでいかにお金を使っていただくかが重要である。コロナ後、全国各地で観光復興に向けた取組が行われているが、全て公費では賄えないため、受益者に負担をしていただくことが必要となってくる。来ていただくためには、マーケティングが必須である。一方で、観光産業において、休みもなく過酷な状況で賃金レベルもさほど高くない中、働いている方がいる。圏域全体でそういった状況に取り組んでいくことが重要である。
- ・農業においても人手不足である。農業に就きたい人の減少要因としては、初期投資費用がかかり、機械や肥料が高騰していることなどが挙げられる。全体的な仕組みの見直しも必要であると感じている。地産地消が大事であるが、反して、大阪など需要の大きい都市部への出荷が多い。多少高くても地元の農産物を食べてみたいと思えるようにしたい。
- ・農家を支える人材としての職員も減少しており、地元採用者が以前は2~30人だったが、今は10人未満となっている。介護事業も同様で、人材不足により縮小せざるを得ない状況である。地元に残って働いてくれる人が必要である。
- ・乗合バスについては、神宮参拝者数がコロナ禍前と比較して4割減となっており、影響を受けている。一方で、ICカードの導入など自治体と連携して実施している。
- ・貸切バスはコロナ禍前と比較して4割減の利用である。生産年齢人口の減少等に伴い、人員不足となっており、事業の維持が難しい状況となってきている。全国的に多くのバス事業者が廃業となっている中、地域の交通ネットワークの充実に向けて、頑張っていきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、イベントや事業者同士の交流など、様々な事業が再開されてきている。コロナ禍において、町内の消費活性化に向けて地域商品券の発行等を実施してきたが、町外の方も利用できるよう、仕組みづくりに取り組んでいる。
- ・創業したい人がスタートをきれいな支援が必要であると感じている。
- ・高校生を対象に地元企業を知ってもらう取り組みを実施している。
- ・町の85%が森林であり、建設・土木関係の事業所、職人などの個人事業主が多い。最近の傾向として、高齢化による廃業が多く、事業継承が難しい状況を聞いている。第三者承継なども視野に入れ、三重県産業支援センター等と協力しながら対策を考えているが、現状は厳しい。
- ・イベントを担う事業者も高齢化している中で、継続が難しくなっている。イベントの実施が地域活性化にどうつながっているか検証が必要であると考えている。

- ・伊勢市から志摩市への通り道となってしまう状況だが、町にはたくさんいい所があるので、宿泊施設、キャンプ場、マリンスポーツ等を軸に活性化を図りたい。
- ・水産業については、魚が取れなくなってきて価格が高騰している状況である。自然のことはあるが、仲買人や旅館等は影響を大きく受けることから、対策を検討していきたい。
- ・「伊勢志摩」というブランディングが着実に進んできていると感じる。伊勢市・鳥羽市・志摩市が合同でフランスでのPRも実施予定である。7月には鳥羽市にダイヤモンドプリンセス号が寄港する予定で、2,000人が来訪し、その7割が伊勢神宮を参拝予定である。
- ・伊勢志摩観光コンベンション機構において、修学旅行、ドラマ・映画等のロケの誘致を広域で実施している。遷宮に向けて、伊勢志摩がひとつになって課題に対応していきたい。
- ・海女文化は重要な観光コンテンツであり、特にインバウンドで効果が大きいが、志摩市周辺の磯焼けが著しく、危機を迎えている。漁業においても大きな打撃を受けている。
- ・町内のコンビニ店、クリーニング店、ガソリンスタンドなどが高齢化で事業の継続が難しくなっている。人口減少という課題を受け入れたうえで、検証をしていくことが必要だと感じている。
- ・アドレスホッパーと呼ばれる方々がシェアハウスに集まり、様々なことに取り組んでいる。情報発信力が非常に高く、動きも早い。商工会で支援していく必要を感じている。一方で、小さい町では成功事例が大きく出すぎる懸念もあり、冷静な視点での検証も必要であると考えている。